

令和2年度第2回京都市政策評価委員会（令和3年3月23日開催）摘録

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度第2回政策評価委員会を開催いたします。</p> <p>本委員会につきましては、今年度は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況につき、オンライン開催としておりますが、これまでどおり公開としております。傍聴者にこちらの市役所会議室にお越しいただく形で傍聴可能としておりますので、御了承願います。</p> <p>委員の皆さん方には、大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私、政策企画調整第一課長の仲筋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは開催に当たりまして、平野計画調整担当部長から御挨拶を申し上げます。</p>
<p>事務局 (平野部長)</p>	<p>計画調整担当部長の平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は年度末の慌ただしい中、御出席いただきありがとうございます。</p> <p>京都市においては、市民の皆様の御協力の下、新型コロナウイルスの新規感染をかなりの程度まで抑え込むことができ、緊急事態宣言も先月末をもって解除されたところですが、リバウンドを防ぐために引き続き感染防止対策に取り組む必要がございます。今回の政策評価委員会もオンライン会議ツール「Zoom」を用いたリモート開催とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、前回の委員会で御説明いたしました次期京都市基本計画案につきまして、1月に基本計画審議会からの答申をいただき、現在、京都市会に議案として提案し、御議論いただいているところです。先日も、この基本計画案を審査するための特別委員会が開催され、活発な議論が交わされました。3月26日の本会議で議決いただければ、令和3年4月から5年間の計画として成立する予定となっております。</p> <p>前回の政策評価委員会では、この次期基本計画案に掲げている「みんなでめざす2025年の姿」について、市民の皆様がどれだけ実感できているかお尋ねするための設問案について御議論いただき、貴重な御意見を多数賜りました。本日は、これを踏まえた修正案について御議論いただきたいと思います。</p> <p>また、次期基本計画の政策や施策に対応した新たな客観指標の案も一定取りまとめりましたので、こちらについても御議論いただきます。</p> <p>今年度2回の議論については、昨年度同様、「政策評価制度についての</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>意見」として取りまとめ、公表していくこととなりますので、今回の議事の最後には、この意見書案についても御議論いただきたいと考えております。</p> <p>限られた時間の中で数多く御議論いただくことになり、委員の皆様には御負担をおかけいたしますが、いよいよ大詰めとなりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上、簡単ではございますが、開催に当たっての挨拶とさせていただきます。</p> <p>それでは、以後の議事につきましては、佐野委員長にお願いしたいと思っております。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>それでは、本日の議題の1として、京都市基本計画審議会及び京都市持続可能な行財政審議会における検討状況ということで、この政策評価が京都市の基本計画に沿った形で作られているので、その検討状況等について、事務局から簡単に御説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題1「京都市基本計画審議会及び京都市持続可能な行財政審議会における検討状況」について説明(資料1-1, 1-2)－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。前半の基本計画については、今後京都市会で議決されるとのことですが、基本的には大きな変更はないと考えてよいのでしょうか。例えば、みんなでめざす2025年の姿が急に変わってしまうと、市民生活実感調査の設問も変更する必要があると思うのですが。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>京都市会では、基本計画の審査のための特別委員会が設置され、市長による総括質疑などを通して議論を深めていただいております。最終の議決は3日後になりますが、この間の議論を聞いている限りでは、今、委員長がおっしゃったような2025年の姿が抜本的に大きく変更されるような議論はなかったかと思っております。本日は、お配りしております議案を基に御議論いただくということで問題ないと考えております。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>分かりました。もし何か変更があれば、来年度調査を実施する前に、改めてそこはチェックするということが良いですか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>その際は、速やかにお知らせしたいと考えております。</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。それから行財政審議会の方は、先ほど課長から話がありましたとおり、行財政改革に合わせて目標値が変わるということはもちろんのこと、目標の設定の仕方そのものも変わるかもしれません。また、政策評価そのものが整理の対象になりかねないところがありますので、できるだけ費用や時間を掛けずに、一方で、評価として機能するようなものを考えていく必要があるかと思っています。</p> <p>それでは、皆さんの方で何か御質問や御意見があればお願いします。</p> <p>この議題については、特によろしいでしょうか。これから個別の論点に入ってきますので、もし、この議題との関連で何かありましたら、その旨おっしゃっていただけたらと思います。</p> <p>それでは、続いて議題の2として、令和3年度以降の市民生活実感調査の設問案についてということで、前回の委員会で設問案を見ていただき、いくつか御意見が出ていたと思いますので、その点に関して事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題2「令和3年度以降の市民生活実感調査設問案について」について説明（資料2-1～2-3）－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。かなり全体的に見直していただいて、私も全てをチェックしたわけではないのですが、当初のものより大分分かりやすくなっているかと思っています。見出すとキリがなくてなかなか難しいのですが、皆さんから見えていただいているところがあれば、頂けたらと思います。</p> <p>それでは私から。市民生活の安全の姿2の設問について、前回もっと分かりやすく言えばよかったのですが、この姿は犯罪や交通事故が起こった後の話ではなく、そういったことが起きないように普段から防犯活動や交通安全運動をしようという話のはずで、にもかかわらず設問では起こった後に助け合うといった話になってしまっていて、まだ姿から乖離していると思います。</p> <p>設問1が実際に活動が行われていること、設問2がそれができる関係性ができていることという趣旨だと思いますが、例えば、姿2の文章をそのまま使って、地域のつながり・交流が盛んで、安心して安全に暮らせるまちとなっている、というぐらいにしておけば、設問1とのつながりで何となく想像がつくのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>姿を見ると、1と2は同じような内容に見えますが、推進施策で言うと、(1)として、安心安全なまちづくりを、京都府警や市民、地域の各種の活動団体とオール京都で取り組むことを、(2)、(3)はそれを少しブレイ</p>

佐野委員長	<p>クダウンして、地域における「見せる防犯」の拡大や交通事故防止の取組を掲げており、それらとの対応も考慮しながら、頂いた御意見を踏まえ、所管局に確認させていただきたいと思います。</p> <p>今の御説明で、1が組織的な大きな話で、2が地域の話というのは、よく分かったので、それがもう少し分かるように修正できそうであればお願いします。</p>
中井副委員長	<p>大学の設問4について、「学生が市内企業に就職するなど卒業後も京都で活躍している」とありますが、学生は卒業すると学生ではなくなるので、姿にあるとおりの「京都で学んだ学生が～」とした方が分かりやすくして良いと思いました。</p>
佐野委員長	<p>私もその方が分かりやすいと思いますので、是非お願いします。</p>
白井委員	<p>産業・商業の設問2のうち、京都の企業の定義について、ポイントは姿にある地域企業というワードだと思うのですが、全国資本の企業であれば除かれてしまうのか、調べても少し分からなかったの、教えていただきたい。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>この姿は京都に本社がある企業に限ってはならず、これまでの取組の成果として、パナソニックやLINEが研究拠点として京都を選んでいただいているということも含め、まさに京都で働いていただいているということが重要だと思いますので、そういう方向で修正を検討させていただきます。</p>
深川委員	<p>市民生活の安全の設問1について、先ほどの話を踏まえたうえでの修正案なのですが、評価のポイントからすると、「市民・事業者等の協力・連携により、地域の防犯・交通安全活動が一体となって行われている」とした方が良いと思いました。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。また担当課に御確認いただいて、今、深川委員がおっしゃったように、もう少し協力・連携や、一緒になって、といった部分を強調した方がよければ、そういう形への修正を御検討いただきたいと思います。</p>
掛谷委員	<p>前は欠席になってしまい申し訳なかったのですが、皆さんからの色々な御意見で、すごく分かりやすくなったと思います。そんな中で本</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>当に細かいところなのですが、人権・男女共同参画の設問2について、主語を明確にさせていただいて分かりやすくなったものの、少し1文が長いように思いますので、うまく読点を入れていただくことで読みやすくしていただいたら良いと思います。</p> <p>確かに長いので、「発揮する場所や」の後に読点を入れるなど、検討したいと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>今回ということではなく、次回に向けて少しお考えいただいたら良いかなと思うのですが、今は姿が抽象的であったり、質問としては分かりにくかったりするので、別途、設問を作っているのだと思うのですが、設問を作る時間や労力のことを考えると、本来は最初からそのまま設問にできるような形で姿を記載するのが理想だと思います。これは政策評価というより、基本計画を作るときの話かもしれませんが。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>市民の皆さんと基本計画を共有し、同じ目線で確認できていて、姿そのままを設問にできれば理想なのですが、市民生活の安全のような市民の皆さんにとって分かりやすい、身近な分野に関してはそのようにしやすいと思います。ただし、そもそも政策の体系は、行政の進捗管理がしやすいように分けられているため、例えば、建築物の「建築物の質が向上している」といった姿などにあるように、分野によっては専門的な内容になることがあります。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>この辺りは今後基本計画を作っていくときの作り方の話だと思うので、この委員会の所掌ではないのですが、政策評価委員会としては、最初から姿をもう少し市民に分かりやすいように記載してほしいとか、市民生活実感調査の設問にすることも少し念頭に置いてほしいといったことを要望させていただければと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>ありがとうございます。本日頂いた御意見を踏まえ、設問を修正させていただきます、改めて共有させていただきます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>それでは次に、議題の3として、令和3年度以降の客観指標案についてということで、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題3「令和3年度以降の客観指標案について」について説明（資料3－1，3－2）－</p>

佐野委員長	<p>ありがとうございます。先ほど見ていただいたのが市民生活実感調査ということで、市民の方が、普段、日常生活の中でどう感じているか、主観的にどう思っているかということを知るアンケート調査ですが、客観指標の方は、それぞれの政策や施策の担当課が自分たちの仕事を客観的に数値で評価するのに適していると考えるものを指標として設定し、その数値で評価するものです。</p> <p>そのうえで、例えば環境で言えば、環境基本計画などといった分野別の計画があって、そこでもう既に数値目標や指標が設定されているものがあれば、それをそのまま使うということが基本で、そういった計画がないものについては、今回オレンジで示されており、今回検討された案が示されているところです。</p> <p>これも細かく見ると色々思うところがありますが、分野別計画が策定中などといった理由でまだ案がないものは、またそれができたら見せていただくとして、差し当たり資料3-2を見ていただいて、気になるものや、これが抜けていないか、こういった指標は設定できないかなどといった点について、おそらく全部を見ていただくのは難しいので、御関心のある分野を中心に見ていただいたうえで、御指摘いただければと思います。</p>
中井副委員長	<p>危機管理・防災・減災や消防について、設定根拠となる分野別計画が挙げられていないのが意外だったのですが、分野別計画をお持ちではないのでしょうか。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>分野別計画がない政策分野はほぼなく、防災や消防についても、取組を進めていくうえで、地域防災計画や、消防法等の法令、条例などで事細かに定められております。ただ、それらが客観指標の設定根拠としては馴染まないものということで、局として今回検討された案が挙げられているところです。</p>
佐野委員長	<p>たまたま目についたのですが、危機管理・防災・減災の政策の指標について、「自然災害による死傷者数」だけで良いのでしょうか。最近は大雨で市バスが走らなくなったり、台風で電柱が倒れて停電したりといったことが毎年のように起こっていますが、そういったことは、どこでどのように対応されているのでしょうか。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>危機管理・防災・減災は、現行基本計画の消防・防災から分離してできた政策分野ということでお分かりいただけるかもしれませんが、防災関係の取組を取りまとめる司令塔のような部署に対応するものになっ</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>ており、今委員長がおっしゃったような、水害で言えばくらしの水、道路やのり面の崩落で言えば道と公園・緑、救急で言えば消防・救急、一般のコロナで言えば保健衛生・医療などといった政策分野に分散しているといった状況にあるので、一般的に危機管理や防災といった観点でイメージするものからは少し乖離があるのかなと思います。</p> <p>一方で、それらを総括する部署として、包括的な指標がいるのではないかと、それが「自然災害による死傷者数」なのかという点については、改めて確認させていただければと思います。</p> <p>なるほど。それでは例えば西陣の方のように、道が狭くて、木造の建物が密集していて、おそらく大きな地震が起きると大火災が起これかねない地域における耐震や防火対策というのは、建築物の政策分野に入ってくるということですね。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>テクニックとしては客観指標を複数の政策分野に再掲するといった方法があり、それを試した時期も昔あったようなのですが、逆に見づらくなってしまふのと、評価が複雑になってしまうので、あまり用いていないところです。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>よく分かりました。ありがとうございます。</p> <p>これも素人的な質問というか感想なのですが、他の政令指定都市との比較を指標にするのはあまり望ましくないのでしょうか。都道府県レベルだと、全国ワーストワンから少なくとも平均ぐらいまでを目指すなどといった目標が時々掲げられていたりすると思うのですが。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>そうですね。ワーストワンなので乗り越えなければならないというのはあまりないかと思うのですが、色々な都市特性評価等を見ますと、今、京都市の財政は政令市の中でも悪い状況にあり、その根本原因の一つに国や他都市を上回る水準で取組を進めてきたことがあります。一方で、これまで観光の分野、コンベンションの外国人参加比率などで1位を目指してきた分野があるのも事実です。このように、全ての分野で政令市1位を目指すことが本当にすべきことかというのが今議論になっているところです。</p> <p>また、高齢者率が高いなどといった構造的な要因も影響してくるので、政策に何か問題があるのか、構造的な要因なのかということも考える必要があり、なかなか難しいところです。</p>

佐野委員長	<p>ありがとうございます。私が普段日常的に京都市民として感じている不満のようなものなのですが、例えば図書館の本の数が非常に少ないというのが印象的です。関西全体としてそのような傾向にあるようなのですが、図書館の充実度があまり高くない。入館者数という指標はあるものの、これは図書館がそこしかないのでやむを得なく使わざるを得ないところもあり、充実度を図るうえでは少しずれているので、人口当たりの冊数や面積をしっかりと見てもらいたいと思います。</p> <p>また、京都のまちは狭いので難しいかもしれませんが公園の面積や、それから学生が多いのでやむを得ないのですが未婚率や出生率、後は、自殺者数、交通事故の数なども、既にどこかに入っているかもしれませんが、分かりやすい指標なので、入っていても良いかと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>今頂いた観点も踏まえてまた確認させていただければと思いますが、図書館で言えば、宇治市の図書館などと相互借入ができることもあり、貸出者数という指標も設定しているところです。</p>
佐野委員長	<p>相互借入はそんなに便利ではないですし、図書館に行く目的は特定の本を借りたいというだけではなく、色々な本を手にとれるというのが大事です。箱物で、本気でやるとお金が掛かってしまうのですが、最近、田舎の方だとコミュニティづくりの一環として、駅前に子どもが遊べるスペースやイベントスペースなどが併設された立派な図書館を作っていたりするように、京都も地域の中心地として図書館を充実してほしいと個人的には思います。</p>
白井委員	<p>図書館の本の数については、大学がいっぱいあるので、その図書館を活用できるからかと思っていました。</p> <p>また、先ほど佐野委員長がおっしゃった他都市との比較というのは、数値だけ見ても何が妥当なのかが評価しづらいこともあるので、是非見たいと思いました。例えば、上下水道局の経営評価では主な指標ごとに他都市との偏差値の比較を出していて、これを政策評価にそのまま盛り込むのは難しいかもしれませんが、何らかの形でこういったものを見ることができてれば、妥当性も増すのではないかと思います。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。どういう形でやるのか、全てでやるのかなど、色々あり得ると思います。個々の政策の評価枠で難しければ、参考資料的なもので見られるようにしておくなど、もし何か盛り込めそうであれば、工夫されても良いかと思いました。</p>

<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>現在、全ての政策・施策の評価票に全国順位を記載する欄はあるのですが、独自に設定している指標も多く、それを全ての都市に確認するのがおそらく非常に難しいため、ほとんど活用できていない状況です。</p> <p>全ての指標についてこれを確認することはかなり膨大な作業になり、各局に対し、そこまでの作業を強いることはできないので、例えば京都市の統計ポータルなどの活用により、これ以上各局に負担を掛けない形での比較・参照といったことで対応したいと考えています。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>京都市独自でデータを集計するというのは余りにも大変なので、先ほどの出生率や、図書館の冊数、自殺率、交通事故の数など、比較的簡単なもので、できる部分だけでもできれば少し分かりやすくなるかと思えますので、御検討いただければと思います。</p>
<p>掛谷委員</p>	<p>たまたま大学の指標を拝見していたのですが、例えば、推進施策2の大学・学生の国際化の促進について、京都市内の大学等に在学する留学生数が掲げられているものの、元となる基本計画の文章を見ると日本人学生の留学先での学びの充実なども記載されています。</p> <p>指標が多すぎると分かりにくくなるので、重点的なものをピックアップするという方向性であることは理解しているのですが、何となく取りやすい指標を設定しているということにならないよう、改めて全体としてそのスタンスが守られているかを確認していただくことも必要ではないかと思いました。</p> <p>もう一つは単純な話なのですが、障害者福祉の政策の指標「精神科病院に長期入院している患者数」について、これは減った方が良いものという理解で良いですか。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>そうですね。</p>
<p>掛谷委員</p>	<p>分かりました。やはり増えた方が良い指標と、減った方が良い指標が入り混じっているとしますので、その辺りもまた分かりやすく示していただければと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>ありがとうございます。今回は目標値をお示しできていないので、その辺りが分かりにくくなっているのですが、最終的にはこれら全てに目標値を掲げ、増えた方が良いのか、減った方が良いのか、もしくはその増え方、減り方が直線的なのか、対数的なのか、などといったことが分かるようにお示しさせていただく予定です。</p>

	<p>また、大学の指標に関しては、もちろん大学個別の教育サービスとして海外の大学と関係を深めることや、高い研究成果を上げるために海外の大学に留学などといったことは非常に重要だと思うのですが、京都市としてできること、政策・施策の観点で言うと、呼び込むことと、その環境整備の方に重点を置いているので、この指標になっているのだと思いますが、御指摘のとおり基本計画の文章も踏まえ、もう一度確認させていただきたいと思います。</p>
佐野委員長	<p>今のところで少し気になっているのは、京都市としては留学生数を増やしたいのだと思うのですが、実際に施策としてどうやって増やしているのでしょうか。留学生数というのは基本的には大学が決めることであって、京都市としてできることはそれほどないかと思うのですが。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>基本的には個別の大学の受入れということになると思いますが、京都市として行っているのは、京都の大学のまとまりを作って、その受入れのための環境を整えたり、留学生のための情報サイトを運営するなどといったことが主だったところです。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。後は博物館が無料になるとかそういうことだと思います。もちろん留学生は喜ぶと思いますし、京都市としてそういうことをしていただくのはありがたいのですが、例えば学費を半分負担してもらえなどといったものならともかく、大学で教えている側からすると、京都市の政策のおかげで留学生が増えるというのはちょっと考えにくく、因果関係が遠すぎるのではないかという気がしました。</p> <p>また、今のコロナ禍のようなことにも評価が左右されてしまうことになると思うので、留学生が来やすいような環境整備に関するものぐらいにしておいた方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>計画で定められたなら仕方ないのですが、市内には留学生が住む場所がなく、大学としても寮を作るなど、一生懸命やってはいるもののとても足りない状況で、留学生だと断られる物件もあるらしく、仕方なく宇治の方に住むなどといったようなこともあるようなので、京都市としてはそういうところを支えていただき、来てもらった留学生にいかに快適に過ごしてもらおうかということを目指したほうがよいのではないかと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>ありがとうございます。アウトカムとは離れた指標設定になっているのではないかという御指摘だと思いますので、もう少しロジックモデル</p>

<p>深川委員</p>	<p>的に政策に近いような指標の方がいいのではないかとということも含め、担当課に確認したいと思います。</p> <p>今回の指標に関してはおおむねこれで見えていくと良いと思うのですが、今後こんなことができないかという提案として、政策分野ごとだけでなく、評価結果を伝える対象に応じて横断的に代表的な指標でお示しするといったことがコラムのような形でできないかと思っております。</p> <p>イメージで言うと、子育て世代であれば、預け先や子どもの教育の充実度、住宅の価格など、先ほどの留学生であれば、大学環境や居住環境の充実度、語学や文化を伝えてくれるNPOの数など、ほかにはインキュベーション施設や図書館に関するものなどもあると思いますが、5つぐらいの代表指標を用いたレーダーチャートで京都市はこういう状況ですといったことや、どういう状況に変化しているのかということ、もう少し包括的にお示しできれば良いと思いました。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>ありがとうございます。今、市議会でも幸福度をどう捉えるのか、移住先としての京都の魅力は何か、などといった議論もあり、京都としてアピールできる数値や、エビデンスとなる数値を持っておきたいと考えております。</p> <p>一方で、それを政策評価として示すことだけを考えると、単に評価するだけで、作業がルーティン化していく危険性があります。そうではなく、移住促進や企業誘致に取り組んでいる部署などと連携し、文化や歴史だけでないPRやエビデンスとしての活用を見据えながら検討していければと思います。</p>
<p>深川委員</p>	<p>ありがとうございます。物価が高く、子育て世代に住みにくい地域として中京区がよくメディアに取り上げられていて、実際にそうかもしれませんが、民間の調査が多く、正式な評価というのはあまりないので、行政から何らか発信することも大切ではないかと思いました。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>いわゆる都市ランキングは色々な観点で行われており、例えば、京都市には海がないことを理由に評価が下がっているものや、財政的な観点がないもの、あるいはSDGsに着目するものなど、色々です。</p> <p>ただ、そういう観点で都市を御覧になっているのだということは我々きちんと受け止め、どういう観点でどういった指標が使われているのかということも押さえつつ、それらも参考にしたうえで説明できる指標を設定していきたいと考えております。</p>

<p>中井副委員長</p>	<p>大学の指標ばかりで申し訳ないのですが、推進施策5に関して、基本計画の文章ではリカレント教育の推進などが挙げられているにもかかわらず、指標としてはグリーン産業とライフサイエンスと、理系のもので、人文社会をやっている立場からすると、文系は社会経済の活性化にはあまり貢献できないのだろうかと思ってしまいました。</p> <p>これは産業・商業の指標をそのまま使っているのだと思うのですが、今後の産学連携で言えば情報産業が出てくると思いますし、リカレント教育の人文社会の分野でも歴史研究や考古学など色々あり、全部入れてもらいたいというわけではないのですが、この2つだけで良いのかという事は投げかけてもらいたいと思いました。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>お察しのとおり、グリーン産業とライフサイエンスが選ばれているのは、これまで京都市として、これらの分野において産学公連携による基幹産業の開発や新産業の育成に重点的に取り組んできたからだと思います。御指摘のとおり生涯学習・リカレント教育や、デジタル化・情報化などといった観点もあると思いますので、どこまで担当課が把握できるのか、また政策として関与できているかということも確認しながら、一度問題提起してみたいと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。どこまで指標として挙げられるかは分かりませんが、例えば京都産業大学では学生が大学周辺の自治会や町内会と一緒に防犯活動をされていたり、多くの大学の制作系の学部でまちの商店街の活性化と一緒に取り組まれていたり、京都女子大学ではURと連携されていたりと、大学と地域、商店街等が連携した取組というのはものすごくたくさんあります。そういうものを一つ一つ全て数えるのは現実問題として難しいですし、大学の枠を超えるようなものは推進施策3の指標でカバーできるとして、あくまで大学のゼミなどで地域に入っていく取組なども工夫して把握できればと思いました。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>色々な形で連携して取り組まれている中で、それらをどのように把握できるのか、少し考えさせていただければと思います。</p> <p>また、先ほどの中井副委員長や掛谷委員のお話にも関連しますが、この施策はどこに焦点を当てるのか、これまで10年20年やってきたグリーンやライフサイエンスという工学系の産学連携の指標をそのまま踏襲することで本当に良いのかということも含め、担当課と協議したいと思います。</p>

佐野委員長	<p>是非お願いします。また、大学と企業の共同研究というのも無数にあつて、京都市が関係しないものも多い中で、これらの指標では、それらを全て含めるのか、京都市が関わっているものだけにするのかということも御確認いただければと思います。</p>
白井委員	<p>先ほどからのどこに重点や焦点を置くのかという話を踏まえたときに違和感があったのが、大学の推進施策1の指標について、これが基本計画の文章の「新たな単位互換科目の開設など」に対応するものというのは分かるのですが、その後、最後の「大学施設整備の支援・誘導を行う」まで並列で記載されているので、本来であれば、これらに対応する指標も全て入れなければおかしいような気がします。</p> <p>また、指標が立てられないから仕方がないとしてしまうと、いつまでたっても評価できずに放置されてしまうことになるので、答えがなくて申し訳ないのですが、どうしたら良いのでしょうか。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。1つ目の話は、確かに厳密に考えると、魅力の向上のために、単位互換科目の開設、ICTの活用、安心して安全に学べる環境の充実、大学の特色化・機能強化の支援、大学施設整備の支援・誘導を行うと並列で記載されているので、指標としては単位互換科目に限られないということになると思いますね。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>それぞれ指標は把握できると思うのですが、全てに指標を設定するとすると、それこそ全体で400では済まなくなってしまうので、先ほどの推進施策5と合わせてどこに重点を置くのかということを確認したいと思います。</p>
佐野委員長	<p>担当課としては差し当たり単位互換科目を増やすことを一番に考えられているのかもしれませんが、基本計画の文章を読む限りではそれは伝わってこないですし、読み込まないと分からないというのは不親切だと思います。</p> <p>色々な要素を盛り込みたいのだと思いますし、基本計画の文章はもう変えられないと思うのですが、今後また御検討いただければと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>おそらく推進施策1の指標については、単位互換科目を大学コンソーシアム京都の事業として実施しているため、指標として把握しやすく、その後の大学への支援というのは決まった支援メニューがあるという</p>

<p>佐野委員長</p>	<p>ものではなくて、個々の大学の事情に応じた支援をしている状況であり、なかなか指標にしにくいのかと思います。</p> <p>一方で、御指摘いただいたように、並列で記載していることもありますので、根本的にどこを目指しているのかという点も含め、改めて担当課に確認したいと思います。</p> <p>時間が来ているのですが、もう少しだけ。</p> <p>健康長寿の指標について、やはり一番シンプルに健康長寿を表す指標と言え、平均寿命や健康寿命ではないでしょうか。5年ぐらいではあまり増減しないので除かれているのかもしれませんが、データとして調べれば出てくると思うので、指標にはしやすいと思います。</p> <p>また、「自殺による死亡者数」は、やはり絶対値より率で出していた方が、人口変動の影響を除外でき、他都市比較もしやすいので、御検討いただければと思います。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>「自殺による死亡者数」については、市議会等でも、これだけの数に減りましたというような評価が本当にいいのかといった議論があるなど、表現に配慮が必要な数値ですので、その点も含め、担当課と協議したいと思います。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>後は、がん検診の受診率などもよく指標とされていて、都市によって結構差が出るものなので、あっても良いのではないかと思います。ただの思い付きなので、参考までにしていただければと思います。</p> <p>それでは、議題の4として、令和2年度政策評価制度に関する意見についてということで、事務局からお願いします。</p>
<p>事務局 (仲筋課長)</p>	<p>－事務局から議題4「令和2年度政策評価制度に関する意見について」について説明（資料4）－</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>1つ目は、客観指標を適切に設定してくださいということ、2つ目は、コロナ禍のようなことがあるけれどもできるだけ何とか工夫してやってくださいということ、3つ目は、基本計画の在り方そのものが変わるかもしれない中で、政策評価の仕組みを簡素化しつつ効果的なものになるよう今後考えていかなければいけないということでした。</p> <p>各部局がアンケート調査を行う中で、市民生活実感調査と同じようなことを重ねて聞いている可能性があるため、既存のアンケート調査の結果があるものはできるだけそれを流用し、どうしてもそういうものがな</p>

掛谷委員	<p>いものを市民生活実感調査で対応することで簡素化するなど、内部調整が必要かと思いますが、何か工夫できるのではないかという気がしています。</p> <p>内容というよりは、文言に関してなのですが、「適切な客観指標・目標値の設定について」のところで、昨年度と同じく「実態とかけ離れた目標値となっている場合は、目標設定の妥当性を検討」となっていますが、この文言だけ見ると、実態とかけ離れていたらもれなく目標を見直さないといけないように受け取られかねないので、現場の方に御説明される際に少し補足していただければありがたいと思いました。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>ありがとうございます。修正案を考えてみたいと思います。</p>
中井副委員長	<p>最後の政策評価制度のところで、先ほど委員長がおっしゃったように既存の調査を活用するというのは私も賛成です。私はごみ収集業務の評価委員会にも関わらせていただいているのですが、そこでも毎年アンケートをやっていて、回答層は若干ずれるかもしれませんが、利用できると思います。</p> <p>ただ、既存のアンケートの設問をそのまま利用するとどうしても基本計画の姿とずれてしまう可能性がありますし、せっかく今まで委員会でも議論して市民生活実感調査の設問を作ってきたところなので、これをそれぞれのアンケート調査に1つ2つ足してもらえれば、より現状に近い形で把握できるのではないかと思います。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>ありがとうございます。おそらく色々な条件下で、色々な対象に基づくアンケートがあると思います。これらを活用する場合、これまでの市民生活実感調査のように「同じ条件で同じ対象に対するアンケート結果をそのまま評価に等しく用いるという方法論」は使えない可能性がありますので、例えば、個々の客観指標と同列に扱って評価する方法等を考えないといけないと思います。行政評価条例には市民の満足度を把握することしか記載されていないので、その趣旨も踏まえながら、本当に良い、重ねてのコストにならないような方法を考えていきたいと思えます。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。時間も来ましたので、本日の議事、それから今年度の議事としてもこれで以上ということになります。</p>

<p>掛谷委員</p>	<p>学識委員の方は私も含めて6月末、市民公募委員の方は8月末までという任期となっていて、今日の御意見を踏まえて修正いただいた部分についてはまたメールでフィードバックいただき、それについてまた御意見があれば寄せていただくということで、まだ完全に終わりというわけではないのですが、みんなで集まって話しするというのはこれが最後になるかと思います。皆さんどうもありがとうございました。</p> <p>時間も来ていますが、最後に、簡単に何か一言ずつあればお願いします。</p> <p>皆さんありがとうございました。委員に就任したときと同じ言葉になってしまうかもしれないのですが、本当に意見の言いやすい委員会だったと思っています。これもやはり佐野委員長をはじめ、委員の皆さん、そして事務局の皆さんの御尽力のたまものだと思います。本当にありがとうございました。</p>
<p>深川委員</p>	<p>非常に発言しやすい場を、佐野委員長も、事務局の方も作っていただき、ありがとうございました。政策評価を詳しくは理解できていないかもしれませんが、発言をきちんと酌み取っていただいて、この資料をまとめたり、設問を修正したりするのにすごく調整が必要だったと思うのですが、それを反映していただけたことに感謝申し上げます。</p> <p>コロナの影響や、先ほど幸福度の話も出てきましたが、今後どういう社会を作っていくかによってこの政策評価は変わっていくと思います。このような形で委員会が進むとおそらくすごく柔軟に対応していけるとしますので、今後ともこのような形を望みます。皆さんありがとうございました。</p>
<p>中井副委員長</p>	<p>この委員会に入れていただいて、委員長をはじめ、事務局から非常に丁寧に色々と教えていただいて、本当にありがとうございました。設問の作り方など、私も非常に勉強になりました。</p> <p>京都市は基本計画の政策から、施策、事務事業という流れ、そして、市民の考えをどのように把握するのかというところを丁寧にされていて、それでかなり負荷が掛かってきたところを、少しずつ減らすということがこの委員会ではできたのではないかと考えております。</p> <p>ただ、減らすことを目的にしてはならず、政策を向上させる、市民の満足度や水準を上げるということを維持するということが至上命題だったと思うのですが、それができているというのはすばらしいことで、大変勉強になりました。どうもありがとうございました。</p>

白井委員	<p>あまり評価について分からない中で発言してきましたが、こちらの意図をうまく酌み取っていただいて、今日の資料などでもうまく形にさせていただいてすごくありがたかったと思っています。</p> <p>同時に評価の難しさを改めて実感しました。個人的な話ですが、この度、中小企業診断士の試験に合格しまして、5月から活動することになります。これからも京都市に住むので、また京都市さんと関わる機会もあると思いますが、この経験をいかしていきたいと思っています。ありがとうございました。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回の委員改選で、京都府立大学の窪田委員長と同志社大学の風間副委員長の2人をはじめ、委員がごそっと入れ替わったので、私もやや不安がありましたが、皆様のお力をお借りしてこういう形で終わることができてほっとしています。</p> <p>仲筋課長にすごくきちんと回していただき、事務局の皆さんも大変熱心に仕事をしていただいて、大変感謝しております。</p> <p>色々懸念だったことについて、少しは形にできたかなと思っており、今後につながっていけば良いと思っております。皆さん今日はありがとうございました。それから2年間、どうもありがとうございました。それでは事務局にお返しします。</p>
事務局 (仲筋課長)	<p>それでは、閉会に当たりまして平野計画調整担当部長から、一言、御挨拶を申し上げます。</p>
事務局 (平野部長)	<p>本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。</p> <p>この2年間は、10年ぶりとなる設問や指標の全面的な見直しに加え、市民に分かりやすい評価票やアンケート調査票への見直しなど、非常に重要な案件の数々を御議論いただき、委員の皆さんには大変な御苦勞をお掛けしました。お陰をもちまして、政策評価制度の大きな改善を図ることができ、心より感謝申し上げます。</p> <p>今後は、今年度の意見書を取りまとめて公表するとともに、来年度の政策評価実施に向け、準備を進めてまいりたいと思います。本日御議論いただきました以外のことでも、御意見ございましたら、随時、事務局まで御連絡いただければ幸いです。</p> <p>それでは、本日は誠にありがとうございました。</p>